

町田市指定無形民俗文化財  
まちだ獅子舞お囃子ガイド

町田市伝承芸能観光連携協議会

## はじめに

町田市は郷土芸能が盛んで、毎年2月に開催されている「町田市郷土芸能まつり」には20を超える団体が参加しています。町田市の郷土芸能のうち、下記の5つについては「町田市無形民俗文化財」に指定されています。

このガイドは、5つの無形民俗文化財の由来、獅子舞またはお囃子のあらすじ、主な配役、主な小道具を紹介するものです。郷土芸能まつりでの鑑賞の参考書として、現地でのお祭りの観光ガイドブックとしてご利用ください。

名称	所在地	文化財指定日	保存団体
金井獅子舞	金井町 八幡神社	S38.10.22	金井獅子舞保存会
丸山獅子舞	相原町 謙訪神社	S38.10.22	丸山獅子舞保存会
矢部八幡宮獅子舞	矢部町 箭幹八幡宮	S38.10.22	矢部獅子舞保存会
大戸囃子	相原町 八雲神社	S38.10.22	大戸ばやし保存会
三ツ目囃子	小山町 日枝神社	S38.10.22	三ツ目囃子振興会

# 1 金井獅子舞 [町田市金井町 八幡神社]

## 由来 History

金井の獅子舞は、寛文年間（1661～72年）に名主神戸太兵衛が金井村の**平穏無事と五穀豊穣**を祈願し、治安維持と慈雨を乞うために**竜頭の獅子**を八幡神社に奉納し、独特の獅子舞を興したと伝えられています。

江戸時代後期の幕府により編纂された「新編武蔵風土記稿」には、「例祭7月28日、獅子舞を執行す」と記されています。

以降約350年間舞い続けられており、**舞うときに足をT字に踏むところ**が他の獅子舞と違い、形式も近

郊付近で最も整った獅子舞と言われています。

1963年（昭和38）に、町田市無形民俗文化財第1号に指定されています。



## あらすじ Story

金井の獅子舞は、雨乞いの獅子舞であり、雨を司る龍をお守りするのが河童と言われています。この河童と雄獅子2頭、雌獅子1頭とで名主の庭で一庭、そして八幡神社で一庭、舞が奉納されます。

物語は、**1頭の雌獅子を2頭の雄獅子が取り合いをする**、その行司役を河童（幣追い）がする、そして最後には、里（金井村）に雨が降るようなので、みんな仲良く天に帰っていく、という内容となっています。

名主の庭での一庭は**人生の教訓の舞**、八幡神社での一庭は**雨乞いと五穀豊穣、悪魔祓いの神事の舞**を表しています。



## 主な配役 Cast

平角 [hirazuno]



平角は雄獅子で、角が剣であり、金光色で彩られていて、まゆ毛は太くねじれて口を大きく開けていて眼光は鋭い。

宝冠 [houkan]



宝冠は雌獅子で角はなく、額の中央に宝冠がしつらえてある。眼はおだやかで口元も小さく、踊りも小さい。二匹の雄獅子の間で取り合いをされる役を担う。

丸角 [maruzuno]



丸角は雄獅子で、角が丸くなっていますおり朱色で彩られています。一文字まゆ毛で、口は開いている。平角とともに、雌獅子の取り合いをする。

幣追い [heioi]



幣追いは、3匹の獅子の間に入り、行司の役目をするもので、河童の面をかぶり、手には軍配を持ち、腰には、「飲む・打つ・買う」を表す、「とっくり・さいころ・男の一物」を下げて舞う。神社へ舞いを奉納する伝令役も担っている。

## 主な小道具 Props

### 締め太鼓 [shimedaiko]



3匹獅子の腰につける太鼓で、柳のばち（直径20mm、長さ150mm）を両手に持ち舞の中でたたく。

- ◎皮部径350mm ◎幅162mm
- ◎胴部径250mm ◎重量2,000g
- ◎締め付け穴 10ヶ所

### ささら [sasara]



ささら角隠しは頭に被る。ささらは、歌・笛に合わせ先から手元に2回、先に1回とこすり、音を出すもので、水音を表すと言われている。

- ◎直径35～40mm ◎長さ400mm
- ◎竹製

### 横笛 [yokobue]



笛吹きは、「歌い手」と調子を合わせて、獅子の舞の音頭とりの役目を担当する。

- ◎直径20～25mm ◎長さ400mm
- ◎篠竹製

### 金棒 [kanebou]



金棒引きは2名が担い、手には4尺程の錫杖（しゃくじょう）を持ち、笛・歌に合わせて交互に大地を突き鳴らす。

- ◎直径10mm ◎長さ1,500mm
- ◎鉄製

## 2 丸山獅子舞

[町田市相原町 諏訪神社]

### 由来 History

丸山獅子舞の起源は、徳川秀忠が江戸幕府2代将軍の元和3年（1617年）と言われています。長巖法院が相原の諏訪神社再興を図った時、村民が**五穀豊穰と氏子安泰**を祈って奉納したのが始まりとされています。

この獅子舞は、牡丹の花咲く中で舞われる「花かがり」と言われるもので、2頭の雄獅子と1頭の雌獅子、そして仙人の村の長老（ささら）と舞う情緒豊かな獅子舞となっています。

奉納される例大祭は、以前は7月20日に行われていましたが、後

年9月1日に、そして大正12年の関東大震災以降は8月20日に改めています。現在は8月第3日曜日に行われています。

1963年（昭和38）に、町田市無形民俗文化財に指定されています。



### あらすじ Story

人里はなれた仙境の春、谷間にうぐいすの鳴く声がする山里は、牡丹の花がいっぱい咲いている平和な里がありました。何の不平、不満もなく、無心にたわむれ遊ぶ3頭の獅子と長老「ささら」がありました。しかし平和な里にも、**世俗の波**がいつとなく押し寄せ、2頭の雄獅子は、互いに1頭の雌獅子を独占しようと思い、牡丹の花の中に隠れた**雌獅子をめぐって争い**が始まり、それを見た長老はおお

いに憂い、解決のために走り回り、やがて**風が霧を吹き払い**、雌獅子があらわれ、互いの誤解もとけ、また3頭で仲良く舞うという物語となっています。



## 主な配役 Cast

### 巻き獅子 [makijishi]



ねじれた角をもつ雄獅子で、獅子頭の左右に付けられた「切下げ」の色は緑色となっている。

### 雌獅子 [mejishi]



宝珠をいただく雌獅子で、「切下げ」の色は赤色となっている。頭を覆う青色の「水引き」には、獅子の絵柄と牡丹の花が描かれている。

### 剣獅子 [kenjishi]



剣角の雄獅子で、「切下げ」の色は黄色となっている。獅子が持つ太鼓は直径350mm、幅280mmと大きく、胸の位置に付けられ、長さ240mmの比較的長いバチで叩く。

### ささら [sasara]



他所の獅子舞ではハイオイ（ハイオイ）と呼ばれている役を丸山獅子舞では「ささら」と呼んでいる。桐でできた赤い棒（これも「ささら」という）をこすり、音を出しながら獅子をリードする。

## 主な小道具 Props

### 花笠(牡丹) [hanagasa(botan)]



竹製のささらをこする役の「ささら摺り」がかぶる花笠は、直径400mmの丸笠で、笠の中央に白と桃色の紙花を交互に配置している。また長さ320mmの水引を下げている。ささら摺りの「ささら」は、長さ410mmである。

### 万灯 [mando]



### 大扇子 [oh-uchiwa]



## 丸山獅子舞の唄 Maruyama shishimai song

- ① なりを静めて、おきいやあれ
- ② 森も、林も、うぐいすの声
- ③ ねぎいりは、柳、桜を植えませて、  
さてもみごとな庭のかかりかな
- ④ ねきどのは、西と東に宮建てて、  
社殿、黄金で森がかかがやく
- ⑤ ならい申した、かしまきりぶし
- ⑥ 七つひょうしに、八つひょうし
- ⑦ よそのささらを、しんのうするな  
ら、われらのささらを清くするな
- ⑧ ひめもたち、ささらが見たくば、  
板戸をなさいな、板戸の上の参  
上しよな
- ⑨ 思いもよらず、朝霧がありて、そ  
こで雌獅子が、隠され申す
- ⑩ なんと雌獅子が、隠れても、これ  
もお庭で巡り合い申す
- ⑪ 風が霧を吹き払い、雌獅子、雄獅  
子がおぞううれしや
- ⑫ 人はともゆえ、かくもゆえ、雌獅  
子、雄獅子が肩ならべ
- ⑬ 松山の松にからまる薦藤も、年が  
つきればほろりほごれる
- ⑭ 外が浜、打ちくる波も、元へひく、  
いざ、さらば我らも元へひかば
- ⑮ ならい申した、かしまきりぶし

### 3 矢部八幡宮獅子舞

[町田市矢部町 箭幹八幡宮]

#### 由来 History

矢部八幡宮の獅子舞は、一説には元亀・天正のころ（1570年代の戦国乱世のころ）から始められたと言われています。箭幹八幡宮の例祭に**五穀豊穰と悪疫退散**を祈願して、奉納されています。

矢部町の祭礼は、かつては農作業の合間に行えるように10月に行われたこともあります。作柄の悪い年は、奉納の芸能等は取りやめとなり「くいまつり」と称して獅子舞だけの奉納を行っていました。

現在は、毎年例外なく行われ、9月15日の神社の例祭とともにに行わ

れていましたが、平成16年より敬老の日と決まった経緯があります。

1963年（昭和38）に、町田市無形民俗文化財に指定されています。



#### 曲目 Number

獅子舞は、獅子宿から箭幹八幡宮までの「道行」と神社境内で行う「御庭舞」の2種類で構成されており、メインのテーマは、丸山獅子舞と同様に**雌獅子隠し**です。しかし、実際の舞からはどの場面で雌獅子が隠れているのかが分かりません。これは他の獅子舞では見られない特徴と言えます。

また、獅子舞の衣装や道具を保管し、稽古も行う場所として、個人の家を**獅子宿**とする制度が残されており、1年交代で担当する

家を順番に回っていることも大きな特徴となっています。例祭当日は、獅子宿でお礼の舞を行ってから「道行」に出発します。



## 主な配役 Cast

### 巻き獅子 [makijishi]



ねじれた角をもつ雄獅子。3匹ともに獅子頭の後ろに紫と緑の毛を垂らしている。頭を覆う青色の布は「油單」と呼んでおり、唐草模様に三つ巴紋が描かれている。

### 玉獅子 [tamajishi]



宝珠をいただく雌獅子。3匹獅子の舞は全く同じなため、どの場面で雌獅子が隠されているのか、舞いを見ているだけでは分からぬ。

### 剣獅子 [kenjishi]



剣角の雄獅子。獅子頭は、かぶると頭がすっぽりと入ってしまうほど、高さがあることが特徴となっている。

### 幣追い [heioi]



幣追いは、人間の老人の姿をしており、両手に竹製のさらを持っています。幣追いも獅子とほぼ同じ動きをする。

## 主な小道具 Props

### 太鼓 [taiko]



太鼓 ◎直径240mm ◎幅230mm  
ばち ◎直径20mm ◎長さ160mm

### さらさら [sasara]



◎直径30mm ◎長さ570mm  
◎竹製

### 御幣 [gohei]



獅子舞の演者が腰に挿す5色（緑、赤、青、黄、紫）の御幣。これを貰うと、その年は無病息災で、家内安全であると言われている。

◎長さ210mm ◎幅100mm

## 矢部の獅子舞唄 Yabe shishimai song

- ① なりを静めて、お聞きやれな、我らがさらの、唄の品聞け
- ② この遊びは、八幡様への御法楽な、氏子繁盛に、守りたまえ
- ③ 皆々申せば、限りなしな、太鼓はやめて、遊べ友だち
- ④ 太鼓の拍子お庭の拍子、拍子を揃えて見せ申さいな
- ⑤ 山雀がな、山に離れて、やつづれてな、こなたのお庭で、羽を休める
- ⑥ 早稻田のひつじが、ほにいでてな、ふただの秋にぞ、あをぞめでたき
- ⑦ 奥山のな、松にからまる、薦の葉もな、縁が尽きれば、ほろりほごれる
- ⑧ 京から下る唐絵の屏風、一重にさらりと立て申さいな
- ⑨ 一つを過ごしてのうかいせいな、いぜんの通りにのうかいせいな
- ⑩ 国からは急ぎ戻れと文がきて、お暇申していざ帰ろうな
- ⑪ 太鼓の胴をキリリと締めて、お庭でさらを、摺りこうどうな

## 4 大戸囃子 [町田市相原町 八雲神社]

### 由来 History

天保年間（1830～44年）に江戸神田下町囃子の師匠より伝授を受けた相澤国造が大戸吉川家の養子となり、吉川国造の芸風を慕い集まった郷土の若者等に祭囃子を伝えたのが大戸囃子のはじまりと言われています。愛好者も多く、「大戸囃子」として近隣各地にも伝わっています。

**悪魔祓いや五穀豊穰、平穏無事を**祈るお囃子で、元々は柔らかい曲でしたが、戦後の八王子の夏祭りで山車が向き合って叩き合う「ぶ

っつけ」が定着すると、それに勝つために特に屋台の曲を力強く叩く曲に変え、喧嘩ばやしとなって現在に伝わっています。

1963年（昭和38）に、町田市無形民俗文化財に指定されています。



### あらすじ Story

大戸囃子は以下の8曲で構成されています。

- ①屋台 獅子、天狐が威勢の良い曲で踊り、**悪魔を払う**。
- ②昇殿 大太鼓が主となる静かな曲と舞で、**神様を社殿に招く**（社殿に昇る）。
- ③鎌倉 昇殿と次の神田丸を継ぐ曲で、**国の平穏（平和）を祈る**。
- ④神田丸 大太鼓が主となる曲で、**氏子の物事が丸く治まる**（争いを無くす）ことを願う。
- ⑤印幡 はやしの基本的な曲で、おかめとひょっこが人々の暮ら

しを演じ、人の暮らしや**豊作を祈る**。

- ⑥子守唄 印幡の中の曲で、主におかめが女性の生活を演ずる。
- ⑦四丁目 掛けバチ（締太鼓が交互に叩く）がある曲で、ひょっこ、ばかめんが男性の仕事を演ずる。
- ⑧車切 終わりの曲。



## 主な配役 Cast

獅子 [shishi]



天狐 [tenko]



おかめ [okame]



ひょっとこ [hyottoko]



ばかめん [bakamen]



たぬき [tanuki]



## 主な小道具 Props

大太鼓 [ohdaiko]

大胴 [ohdou]



小太鼓 [kodaiko]

附太鼓 [tsukedaiko]



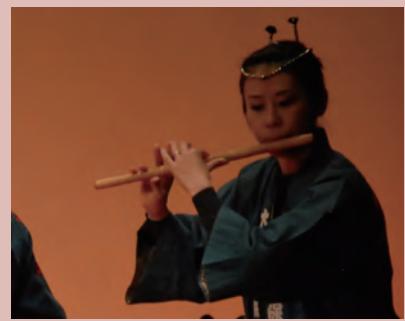
鉦 [kane]

助六 [sukeroku]



篠笛 [shinobue]

鳶 [tombi]



## 大戸囃子を伝授した地域 Instruction area

大戸囃子は明治から昭和にかけて、以下に示す地域に伝授されています。その又伝えを含めると、大戸囃子が原型となっている地域は20数か所になっています。

### 【明治・大正】

相模原市緑区 町屋・原宿・千木良  
山梨県 上野原

### 【昭和】

町田市	中相原はやし連
八王子市	原はやし連
	落合はやし連
	高尾五丁目はやし連
相模原市緑区	小松はやし連
	都畠はやし連
	春日はやし連
	青根はやし連

## 5 三ツ目囃子

[町田市小山町 日枝神社]

### 由来 History

三ツ目囃子が興ったのは、幕末の頃と言われています。隣村の由木村鎧水地区に、**江戸の「神田囃子」や「葛西囃子」が伝来し「由木囃子」と呼ばれるようになり、それが当時の三ツ目村（現小山町）に伝えられて三ツ目囃子として盛大に行われるようになったと伝えられています。**

明治維新の騒乱で一時、下火になりましたが、1879年（明治12）に再び、由木村鎧水地区から伝授を受けて復興し、町田の名物とも

なり、八王子の八雲神社や八幡神社をはじめ、立川方面まで出向き、祭りの裏方までつとめるようになりました。

1950年（昭和25）の皇太后行啓の蚕糸振興共進会や、1953年（昭和28）の三笠宮の御前演技があり、また明治神宮や靖国神社、神田明神などでも奉納出演をかさねて著名です。曲目には「屋台囃子」「間延聖天」「神田丸」「国堅め」などがあり、1963年（昭和38）市の無形民俗文化財に指定されています。

### 曲目 Number

曲名は、「三つ目囃子」が流れをくむ「神田囃子」が行われた周辺の地名に基づくものが多く、別段これといった意味を持たないと言われています。また、お神楽も宗教的・民俗学的な難しい理屈とは無関係に、民衆にとっての大きな娯楽であったと言われています。

#### ○屋台囃子

強烈なリズムは、祭りを盛り上げるのに欠かせない為、神輿の渡御の際には必ず演奏されます。様々な手法を、笛の主導により組み合わせて演奏されます。

#### ○鎌倉、国堅め、四丁目

鎌倉は、横笛の音色が人々の心を静めます。次の国堅めでは、小気味良くテンポが速くなり、四丁目では、附太鼓が奏でるリズムが、祭り気分をもり立てます。

#### ○子守唄、印幡

子守唄は、**おかめが子供を寝かしつける**のに演奏されます。印幡は「仁羽」とも呼ばれ、多くの地域で演奏されています。単調ですが、聴衆の心を搔き立てるには演奏者の高い技術が求められる曲として位置づけられています。

## 主な配役 Cast

狸 [tanuki]



狐 [kitsune]



おかめ [okame]



ひよっこ [hyottoko]



獅子(雄・親子)  
[shishi (osu・oyako)]



獅子(雌) [shishi (mesu)]



## 主な小道具 Props

### 附太鼓 [tsukedaiko]



左右2つの太鼓がセットになっており、大太鼓に近い方が「親」、もう一方が「子」と呼ばれている。「親」の方が音が高いため、それぞれ叩き方も違う。外径約350mm。

一般的に、皮面には、ホルスタイン牛の皮が用いられることが多いが、三ツ目囃子の附太鼓には、黒毛和牛の皮が張られている。桴(ぱち)の材質は朴(ほう)製。

### 鉦 [kane]



三ツ目囃子の鉦は、一般的なものとは銅と錫の配合割合が異なり、厚く重い特注品となっており、比較的音が高いのが特徴。外径約140mm。

桴(ぱい)の先端部は、生きた鹿から切った角でできており、柄には、よくしなる「鯨のひげ」が用いられた特注品で、叩き手自らが加工している。

### 横笛 [yokobue]



笛吹きが各自保管・継承しており、三世代に渡り受け継がれているものもある。三ツ目囃子では、四本調子、五本調子と呼ばれるものが多く用いられる。篠竹製。

### 大太鼓 [ohdaiko]



口径は、一尺一寸(約330mm)。皮面には馬の皮が用いられている。桴の材質は朴で、長さ一尺一寸五分(約345mm)。

町田市郷土芸能をPRするために結成しました!!





町田市指定無形民俗文化財・まちだ獅子舞お囃子ガイド

平成29年2月

町田市伝承芸能観光連携協議会  
(町田市観光コンベンション協会・町田市・東京都)  
事務局：一般社団法人 町田市観光コンベンション協会

